

●題名

2014年6月14日土曜 阿武隈川南沢遡行

●参加者

落合(リーダー)、松村(記録)、会員外1名

●行動記録

なし

●ルート選定

6/7から6/12まで関東甲信地方では雨が降り続いた。

沢はどのくらい増水するのか、を現地確認して今後に生かすのが、今回遡行の目的である。

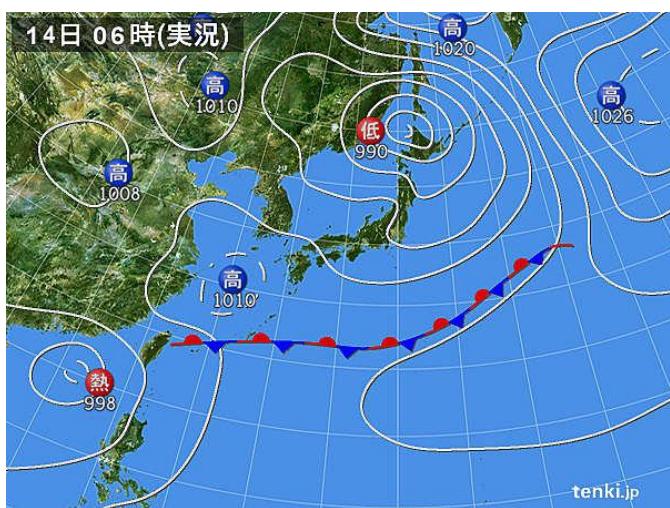
白河における、6/13までの10日間積算降水量は103mm。

北那須はブナやダケカンバの森なので、保水力は高いと予想していた。昨年9月に白水沢を遡行したときは水量が少なかったので、南沢も平時の水量は少ないと予想される。南沢は、地図上は枝沢が少なく見えるので、増水は少ないと期待していた。

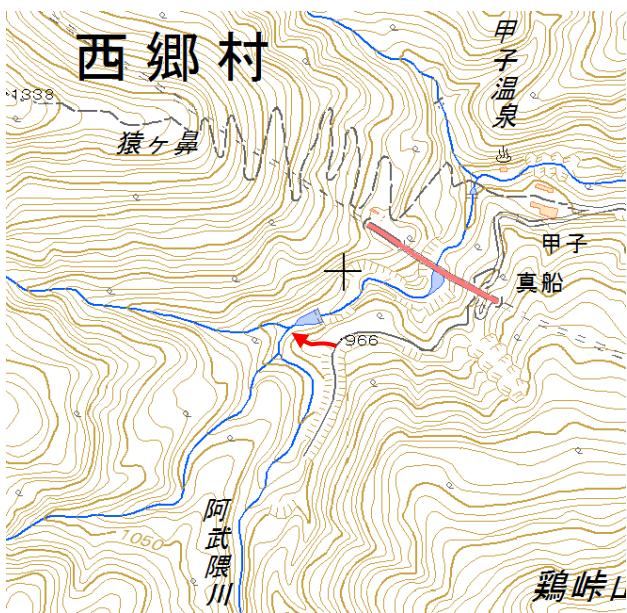
●天気図

当日の天気は、霧雨→晴れ→天気雨。

空は明るいのだが、山の上空には積乱雲が掛っていた。



●写真と記録



踏み跡が多く、下降点が難しかった。おそらく、尾根筋を下降した。(南沢より 10m くらい下流に降り立った)

最初、踏み跡に惑わされて、もっと下流側へ下降してしまい、堰堤に行く手を阻まれて登り返した。

土砂崩れがあちこちで発生していた。



本谷の水量は深いところで腰程度。流れが緩やかなので、徒渉は問題なかった。
南沢に入ると一転して流れが急になり、F1 の水量を見て、パーティーの実力に余ると判断し、敗退を決定した。



F1 は水流沿いが弱点である。
取りつける程度の水圧であったが、水が非常に冷たかった。数分が限界。



一里滝沢も覗いてみたが、F1 の水量がすごかった。
水圧が強く、釜の流れが早いので、滝に取りつくのも止めておいた。

昨年、白水沢を遡行した時は、泥っぽい沢という印象だったが、
阿武隈川本谷・南沢・一里滝沢は明るい川で雰囲気が良く(入口しか見ていないが…)、とくに本
谷は日本を代表する河川の風格を感じた。本谷を遡行する記録もあるようなので調査してみた
い。